

## 令和2年度第1回 県と市町村との総合教育懇談会（概要）

日時 令和2年5月28日（木）

13時から14時50分

場所 長野県庁西庁舎 災害対策本部室

### 1 知事あいさつ

年度当初の大事な時期に学校が休業となり、子どもたちにとって様々な影響が出ていると思っている。

まずは今の子どもをどう支えるかという問題意識を共有するとともに、新型コロナウイルスが再度蔓延した場合や別の危機事象が発生した場合でも子どもの学びをどう続けていけるかについて皆さんと一緒に考えたい。

県と市町村が足並みをそろえ、子どもたちのために全力を尽くして共同することを心から願って冒頭あいさつとしたい。

### 2 意見交換会

<議題：「学校は閉じても、学びを止めないために」>

- 佐藤助教 資料1について説明
- 足助教諭 資料2について説明
- 曾根原学びの改革支援課長 資料3について説明
- 意見交換会

#### 【長野市教育長】

GIGA スクール早く実現してほしいと考えているが、実現の過程で費用の面、マンパワーの面が課題となっている。長野市ではタブレットを貸し出そうとしてもまだ機器が揃っていない。また、家庭でのインターネット通信環境も25%が整っておらず容量の関係も課題があり、一律に進めることができないのが悩み。

できるだけ国の6月二次補正やその後の動向をふまえて対応していきたい。

子どもたちの学びを止めないためにという点で、ICTだけでなく、学校で学ぶ場とICTで学ぶ場の双方について一緒に考えていければと思う。

#### 【大町市教育長】

GIGA スクール構想でハード面では大きな前進があり幸いだが、ソフトの面、教職員の力量や家庭の理解などの体制の整備がこれからの大きな課題

ぜひ県教育委員会でリーダーシップをとり、市町村教育委員会へ指導いただければありが

たい。また、何より意識の改革が大事だと思う。時代の求めているものが家庭・教職員含め理解でき、県と市町村がともになり、前向きに取り組める環境づくりがハード整備とともに必要

#### 【長和町長】

長和町では中学校は上田市と共同設置の依田窪南部中学校1校、小学校は町内2校で、小中一貫教育の研究を進めており、ICT 機器整備促進検討委員会を発足し議論しているところ。

小中一貫教育の推進について、情報手段を活用するための必要な環境整備、学習活動の充実を図るために、小中学校の校長先生やPTA 会長、コミュニティスクールの代表の方、地域の自治会長などの委員で構成する長和町小中一貫教育研究及びICT 機器整備促進検討委員会を昨年9月に発足したところ。令和元年度に2回の委員会を開催し、タブレット端末を活用した授業のデモンストレーションを行い、ICT 機器を活用した授業の理解を深めていただいた。

今年度は新型コロナウイルスの関係で委員会を開催できていないが、感染防止対策を講じたうえで早い時期に開催し、ICT 機器整備を加速的に進めたいと考えている。

伊那市のオンライン授業の取組を参考にしたいと考えているが、課題としてインターネットが児童・生徒の身近になるため、インターネット上での誹謗・中傷やいじめ、犯罪や違法行為などの有害情報に対する情報モラル教育の充実についても重要になると思っている。

そのため、教員のICT スキルの向上だけでなく情報モラルの指導も充実いただきたい。また、学校だけでなく、家庭での保護者の目も必要になると考えている。

#### 【松川村長】

ICT 機器の整備は市町村長が進めていくので、ICT 教育に関してぜひ先生たちがしっかり子供たちに指導できる実をつけていただきたい。

誹謗・中傷がないような授業ができることを願っている。

#### 【上田市教育長】

上田市は4月9日に市内での感染者が確認され、市内全校臨時休業とし、その後の緊急事態宣言を受けて休業を続けていたが、18日から分散登校を始めた。

学校の休業の長期化が続いたため、授業欠落時数が小学校6年、中学校3年でおよそ180時間になってしまった。

その間、先生方はZoomの活用や、動画での授業やプリントの作成を進めてきたが、子どもたちが家庭での理解を深めることに個人差が生じているのではないかと心配している。

ICT 活用状況については上田市35校のうちZoomを使って家庭との連絡を行った学校は7校、内容は学活や授業の実施、他にZoomの職員研修を実施した学校が14校、学校のホ

ホームページに家庭で取り組む課題をあげた学校、学習に役立つ動画をアップした学校が全部で30校ホームページを有効活用している。

教職員のICTの習熟度は先ほど曾根原課長にお示しいただいた内容で言えばAが27%、Bが12%、Cが12%、Dが6%でほとんどないのが43%であり、これから研修の充実が必要と思っている。D段階の先生に活躍して欲しいと思っている。

それから、家庭のWi-Fi環境についてはできることからフォローしたいと考えている。

今後のICT環境整備は急務だと考えている。鋭意取り組む決意と準備はできているので、詳細は控えるがこれから上田市は動き始めたい。

#### 【飯綱町教育長】

GIGAスクール構想をふまえ、順次Wi-Fi環境やタブレット端末の準備は計画的に進めていたが、今回のコロナにおける状況下では、オンライン授業を全員でやるというところまでは追いついていないが、現場の教員が頑張っており対応してくれている。

オンラインに関して言えば若い先生が中心になり、YouTubeの活用による教材の配信など頑張ってくれている。配信すると学校の予想以上に生徒からの反応があったと聞いている。

これから教育委員会としても環境整備に力をいれていきたいが、若い先生はこういった流れに順応しやすいが中堅・ベテランの先生方への研修も進めていきたい。

小さい町村だけだとできることに限りがある。ぜひ国や県が継続して発生する費用についても援助してほしい。

中学校はサテライト教室を開いており、それぞれの場所に分散して授業をしている。

#### 【阿智村教育長】

阿智村は人口6,300人の村であり、5つの小学校と1つの中学校がある。今年度の学校教育予算は3億3千万円計上しており、この3年間でICTの専門主事を一人配置し、タブレットの児童生徒3人に1台の整備を進めてきた。その中で、長野県がGIGAスクール構想の前倒しを打ち出してくれたことに感謝している。

教員のICTのスキルアップは重要だが、指導者の存在・スキルの向上が不可欠

県への要望だが、飯田下伊那は人口が1000人から1000人未満の小さな村が14市町村中6村ある。財政的に苦しい町村に対して、県教育委員会が専門指導主事の派遣などの一時的な指導でなく、常時配置するようにはしないと定着していかないと考えている。ICT教育に特化した県費教員の配置することで県の事業が定着し、進むと考えている。

#### 【阿部知事】

会議の在り方についても変えていかないといけない、テレビ会議をやっているにも関わらず手元には紙の配布資料があり、この環境を当たり前と思う発想を、教育委員会とも一緒に

改めていかないといけないと感じている。

佐藤先生、足助先生お二人の話を聞いて、ICT はあればいい、教育を補助するという発想は変えていかないといけない。佐藤先生のお話を聞いて、これからのグローバル社会の中で情報活用能力をメインに据えないと世界に取り残されると感じた。

足助先生の話では、伊那市の取組で「ICT 活用教育推進センター」があるということだが、本当は県にないといけないのではないかと感じた。ICT をどう教育にいかしていくか、専門的な人が進めていかないといけないと思うので教育委員会を中心に考えてほしい。

佐藤先生、足助先生あるいは教育長の方々に3つ教えていただきたいことがある。

一つ目はICTで双方向の学習をする際に、一つの教室で集める授業とは状況が全く違うと思うが、オンラインで実施する場合のークラスの人数は今のままでよいのか、子どもたちの集団の作り方、クラスの単位のあり方はどうあるべきか。

二つ目は学校の先生は変わるのか、変わりきれない部分があるとすればどのようにサポートすればいいのか。

最後に、個別最適化された学びの実現のためにICT教育やオンライン授業の重要性だと思うが、いわゆる履修主義ほどの程度維持して習得主義についてどう転換すべきか。

#### 【佐藤助教】

知事の発言の冒頭でグローバルという点で付け加えることに人口減少化社会がある。

長野県もこれから人口減少していくことになるかもしれないが、人がいなくなるからICTで支援をしていきましょうとか、プログラミングを子どもたちに教えて、産業や農業にテクノロジーを生かしていこうということが情報活用能力を育成する目的の一つとすると、長野県の戦略に関わると感じている。

質問について一つ目のークラス当たりの人数について、信州大学で授業をしているが、自分の感覚だと30人では一人だと厳しいので、もう一人いるといいと感じている。

阿智村さんのご発言にあった専門主事の常駐だが、サポートの存在はICTを利用していくうえで必要となる。多ければ多いほどサポートが必要。

二つ目の質問だが、学校の先生は変わる。イメージがつかないだけで体験すれば走り出せる。まず体験することが重要。

個別最適化について、個人的な意見であるが、システムやデータ量の蓄積の関係で時期尚早な気がしている。今は運用・試行段階の状況だと思うので、現状は県教育委員会の示す「個に応じた対応」という形が的確だと考えている。

#### 【足助教諭】

一つ目の質問について、例えばZoomであれば画面に5対5で映るので25人となるが、それも工夫できるので現状の教室であっても可能だと考えている。

二つ目の質問について、この機会に実際に体験してみるとよいと考えている。伊那市は Zoom の研修をあえてオンラインでやった。それで先生方は感覚をつかむ、自分がどのように話せば相手に伝わりやすいか、どのように言葉を精選すればいいのかを考えることになる。

これが授業の中でもいきてくる。

個別最適化についてはアフターコロナの中で ICT の価値、子どもたちが学んだことを自分としてどう表現するのか、例えば国語の授業の中で漢字など覚えるべきものはあらかじめ勉強しておき、それをどう表現するか、音声や文章、絵などで表現をする活動を通して自分の知識や学力として身につく、それが ICT の活用により実現できる。

その観点から GIGA スクールについて考えていくべきで、コロナとは別の問題で考える方がよいと思っている。

#### 【阿部知事】

足助先生には一番聞きたい点が 3 つの質問の他に ICT 教育推進センターが県レベルでも必要でないかという点で、ICT 教育を進めていくうえでサポートする計画的な組織が必要と考えているが、全県で ICT 教育を上手に進めていくための組織や方法論についてご意見があればお聞きしたい。

#### 【足助先生】

伊那市の ICT 教育推進センターは 3 年ほど前から発足し 5 名で活動を行っている。

私は学校に関わる部分、他に機器の活用に関わる人がいる。伊那市の特徴として教育の発信をして地域おこしに活用しようとしている。魅力発信することで県外からも色々な人を呼び込もうとする意図がある。

教育委員会だけでなくいろいろな観点で教育を見つめている。県のレベルでこういった取り組みをすることがこれからの世界の中の日本を考えるとときに重要な意味がある。

国外の方とも教育について話をしているが日本の教育は遅れており、長野県も同じく難しいところがある。大きな観点でみて教育を進めていくべき。

今、ICT 教育推進センターの中で課題となっているのが学校 CIO、教育 CIO の研修で、コロナの問題に直面し、必要だと再認識し 6 月の中旬に実施しようとしている。

オンライン授業でいうと熊本市が成果をあげており、熊本は災害に見舞われ、インフラの整備の中で子どもたちの教育が止まってしまった。それを何とかしようとして整備を進め画期的な成果をあげた。

そういったことを学ぶと、大きな視野を持つことと、それを推進していくセンターが県の中にないと厳しいと考えている。

#### 【阿部知事】

県レベルでもしっかりと考えていきたい。またアドバイスいただきたい。

#### 【長野市教育長】

これからの時代の学びにとって ICT は必要と考える。これまではある意味履修主義で、子どもがどの程度まで習得しているかあまり考えずに単位を出していたが、一人ひとりがどの程度学んでいるかが大事になる。

これまでの学校の在り方をどう変えていくか、長野市は一斉授業で使うやり方までしかできていないが、スキルが上がらないと本当の意味での ICT 機器の活用はできないし、先生方の意識も変わっていかないためこれからの課題と考えている。

長野市の事例で言うと臨時休業中に分散登校や、保護者に来ていただいて教育相談を行うことで子どもたちの学びを止めない工夫をしてきた。

そうした中で、しっかりとした集計をしたわけではないが、分散登校の結果、不登校の子ども7割くらいが学校にきた実態もある。これから通常授業となった中でどういうカリキュラムが組めるか、学校も変わらないといけないので校長と話しているが、これまでのような集団で一律の一斉学習の場という考えを変えるいいタイミングと思っている。

#### 【大町市長】

GIGA スクール構想には地方財政措置も踏まえしっかりと取り組んでいきたい。

現在、教育委員会で調整しているが、ハード面の整備スケジュールは全国的に実施するとすると年度内では厳しいのではないかと。先ほどの県教委のロードマップにある8月末までの完成は難しいのではと考えている。

また、これをスタートダッシュのきっかけとするためには、先生の熱意や取組の姿勢にもかかっており、大きな課題が残っている。さらには、ICT 活用に関して地域社会や家庭の中でもコミュニケーションツールとして使うなど、学校教育との水準ギャップをどのように調整していくかが深刻な問題だと思う。

なお、先ほどの高遠中学校の取組を聞くと、習熟度はDのように見え、追いつくのはなかなか大変そうだと感じるが、高遠中学校の学校自体の習熟度や伊那市全体の習熟度については、どのような状況か足助先生にお聞きしたい。

#### 【足助先生】

私が伊那市内を回っていて感じたことだが、子どもたちは ICT を使いこなせる。今回、子どもたちに期待して3月2日に文書を出したが、文書を出せば子どもはできるだろう、先生はそれをみて学ぶだろうと思って実施したがその通りの結果となった。

先生たちの中には難しいだろうという先生もいたが、子どもたちの笑顔を見たときに、私もやろうと短期間で実力をつけてくれた。

ある先生はICTなんてという方もいたが、学校体制の中で、みんなで協力してやってみることが重要で、理屈でなくやってみることでスキルがあがる。実際にやることで確実にスキルが上がる。

高遠中学校が先頭をきって実践し、伊那市を引っ張ろうと取り組んでいる。伊那市 21 校の中ではやはり遅れているところもある。6 月、7 月の研修会を通じて、もし第二波が来たときは全小中学校が最初からオンライン授業ができるように取り組んでいく。

その各学校の先頭に立つのが学校長、教育 CIO、学校 CIO だと思っている。

#### 【長野市長】

オンラインについて、この機会に ICT スキルの向上のチャンスだと考えている。県教委の資料の中の課題に教員スキルの向上があるが、端末は時間がたてば整備できるがスキル向上はここで一気にレベルを上げるチャンスであるのでご努力いただきたい。

子どもたちの情報モラルやセキュリティ、教育の安全についてどのように整備をすればよいか教えてほしい。

#### 【佐藤助教】

スライドの 25 ページにある OECD の調査についてだが、日本の子どもは ICT 機器を学習には使わず、家庭で娯楽にしか使っていないという結果があり、これが情報教育やメディアリテラシーと言われる能力の育成に関わっている。

今は学校で ICT を使っていないため、先生方は学校で情報モラルを指導する場面に遭遇できず、情報モラルの指導がしにくい。家庭の端末で起きた情報モラルに関する事案を、目の前で見てもない先生が指導しており、実態と指導が乖離しているのが現状。学校の学習の中で ICT 機器を使うことで情報モラル教育も同時に指導することができると考えている。

#### 【原山教育長】

実はコロナの前にはベテランの先生方や我々の世代の人間は黒板とチョークで十分と考えている人が大勢いた。

しかし、コロナの影響を受け、学校が臨時休業となり学習をどうしようかと考えたときに威力を発揮したのが ICT だった。これから第二波、第三波が来ることを考えれば ICT 環境の整備は急務で、足助先生がおっしゃったように先生方が実際に触れることでイメージがわかこれは使えるとなるはずである。

これがアフターコロナにいきっていくはずであり、戦略的にいうとここで遠隔学習、オンライン学習を一気に進めることが必要と考えている。

ぜひ、各市町村長の皆さまにもご協力いただき、県教委としてはロードマップに沿って教員のスキルレベルを C の段階までしっかりと取組を進めたいと考えている。